

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ブラッディ・バジャー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.570	ΔRG	0.041	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ブラッディ・バジャー

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

研磨剤 番

比較対照ボール：バジャー

フレアーの幅 インチ

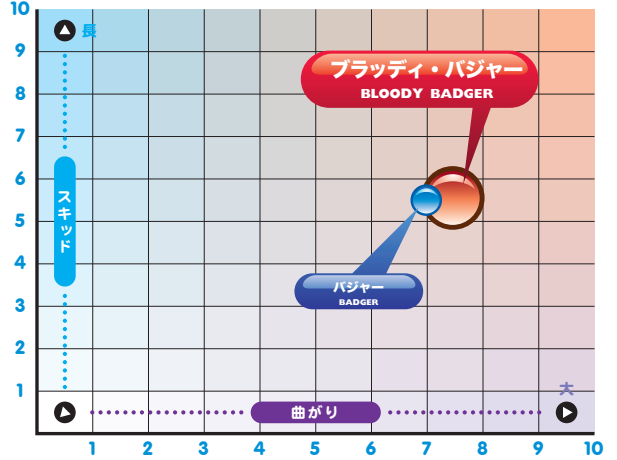
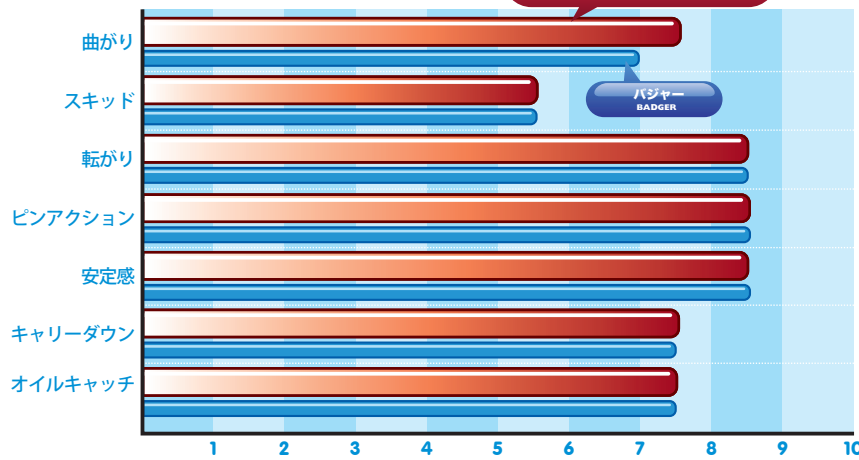
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

研磨剤 番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

4月におこなわれたダリアバヨクプロの縦断ツアーでHony Badger及びHony Badger Tealと共に脚光を浴びたボールがBadgerです。今回リリースするBloody BadgerはBadgerと同じS71 Hybrid ReactiveでLacerate Symmetricコア。コアの基本数値も2.570ΔRG0.041で、配色の変更でパフォーマンスを変えています。

BloodyBadgerは今月同時発売のHony Badger Black Pearlと同じ素材ですが、Black PearlはPearl素材、このBloody BadgerはHybrid素材です。カバーストックの素材違いもさることながらHony BadgerのGrapnel™ Asymmetricコア(非対称)かBadgerのLacerate™ Symmetricコア(対称)なのかで同然パフォーマンスは変化しますので、同じ領域のボールであってもしっかりと差をだしています。Bloody Badgerの特徴は縦長のコアの特徴を活かすことで曲がりの協調部分をピンヒット部分の集約させる意図をもっています。縦長のコアはやや慣性が高く、手前の転がり感を出し過ぎないことでボールのパワーを先へ遅らせることができます。またS71 Hybridという強過ぎないカバーストックと組み合わせることで手前の余分なキャッチでのパワーロスを軽減させ、ミディアムライト領域でしっかりと走り、先で動く印象を持たせてくれます。

BloodyとBadgerの比較投球では、ややBloodyのほうがスキッドが短く感じ、オイルに対しての安定感が増したイメージが見えました。

またドライエリアでのグリップも強めに感じたので、角度のある曲がり期待できます。Hony Badgerの場合はマスバイアスの特徴というか、Midで少し動き始めが見えます。それはそれで良いのですが、遅めのコンディションになった時にあえてそこのプレーキングが不必要に感じることもあります。そのMidの減速が必要なアジャスティングではHony Badgerを選択し、そこを越えて動きを欲しいようであればBloody Badgerを使うのが良いでしょう。

特記事項

ミディアムから下のコンディションになった時に、非対称のコアか対称コアなのかでラインも展開も変わります。タイプに合わせこの二つのボールからお選びください。